

令和元年11月29日
国土交通省総合政策局

平成30年度建設副産物実態調査結果（暫定値）

平成30年度に全国の建設工事から排出された建設副産物について、再資源化及び排出量等の調査結果（暫定値）をとりまとめましたので公表いたします。

●建設副産物実態調査とは

- ・全国の建設工事や再資源化施設等を対象に、建設副産物の発生量、再資源化状況及び最終処分量等の動向に関する実態を把握するため、概ね5年ごとに実施している統計調査です。
- ・調査結果は建設リサイクルに関する諸施策の策定及びその効果の進捗状況の把握等に役立っています。

●調査結果（暫定値）の概要

再資源化及び排出量等の動向

（1）建設廃棄物

平成30年度の建設廃棄物の再資源化・縮減率は約96%となっており、前回調査（平成24年度）とほぼ横ばいです。

品目別にみると、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊は横ばいですが、建設発生木材、建設汚泥、建設混合廃棄物は向上しています。

【参考資料参照】

（2）建設発生土

平成30年度の建設発生土有効利用率は約90%となっており、前回調査（平成24年度）より向上しています。

【参考資料参照】

●調査結果（確定値）の公表時期

「確定値」につきましては現在とりまとめ中のため、出来次第、お知らせいたします。

<問い合わせ先>

総合政策局 公共事業企画調整課 インフラ情報・環境企画室 課長補佐 古堅、施工環境係長 宗光
電話：03-5253-8111(代表) 内線：24523、24525、03-5253-8271(直通)
FAX：03-5253-1551